

タブレットの活用事例について

令和 3 年度から導入されるタブレット活用を見据えて、浜田における学校でのタブレット活用と博物館との連携方法の検討が必要である。そのため、まずは他県での取組み事例を参考として紹介する。

○博物館データを小学校の電子教材とした実験授業

＜新潟県 柏崎市の小学校＞

- ・「柏崎市 WEB ミュージアム」の開発の中に小学校で実験授業を実施（2015 年 12 月）。
- ・内容は、これまで副教材として使われてきた紙の冊子を電子化したものと、博物館が所蔵する地元の文化資料のデータベース、そして新たに作成した特集記事を内包。

■タブレット端末のトップページ

参考：早稲田システム開発(株)
『ミュージアムレポート No.39』

■タブレットを活用した授業への反応

※『ミュージアムレポート No.30』より抜粋

- ・子どもたちの反応は、電子教材でページを開く、画像を拡大する、といった操作を器用にこなす。
- ・その場に資料がない質問が出た場合には、教員がすぐに検索して補足ができる。

- ・タブレットを使った地域学習は、子どもも興味を持ちやすく、紙の資料とは異なり画像を大きくして見られるなど、よりアクティブな授業が可能。
- ・キーボードが苦手な子もタッチモニタなら扱いやすいため学習意欲を保ちやすい。

▶ 博物館見学の事前学習として、タブレットを活用することが考えられる

○学校の社会見学の対応を見据えた導入例

<東京国立博物館>

- ・見学ガイドアプリの貸し出し「学校版トナーハクナビ」を2020年6月より実施。
- ・タブレット端末による博物館見学ガイドアプリを使って展示室を見学するプログラム。
- ・ガイドに従って楽しく見学し、感想やその場で撮影した画像を入力することで、見学授業のレポート作成も可能。
- ・90分程度のプログラムで、参加可能人数は50人まで。

▶ 集団見学でのガイド機能の補完、見学レポートの作成支援としてタブレットを活用することが考えられる